

甲南大学動物実験委員会

甲南大学では、「動物の愛護及び管理に関する法律の一部を改正する法律」の施行及び「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本方針」等を踏まえ、科学的観点と動物愛護の観点から、動物実験の適正な実施及び実験動物の適正な飼養・保管を行っております。

<学内規定・関連規則等>

2007年4月1日から「甲南大学動物実験取扱規程」を制定しました。

2021年10月28日「甲南大学動物実験取扱規程」の改訂を行いました。

2025年度

<動物実験の実施状況>

・申請課題数：19件

「瘢痕を生じない皮膚再生に関する研究」

「天然物加工品の効果と作用機序に関する研究」

「脳神経系、網膜及び筋肉の形成と機能発現に関わる遺伝子およびタンパク質の解析」

「インジェクタブルポリマーを用いた細胞移植による皮膚組織の完全再生技術の開発に関する研究」

「皮膚老化に対する間葉系幹細胞移植の治療効果に関する研究」

「アリ科女王の長期間にわたる大量の精子貯蔵メカニズムの解明」

「オルガネラ形成と機能に関わる遺伝子およびタンパク質の解析」

「物理的環境に対する応答シグナルとがんの病態制御メカニズム」

「がん関連遺伝子を標的とした光線力学療法の開発」

「 β -キチンゲルを用いたスプレー式癒着防止材の開発」

「細胞ゲルを用いた骨格筋組織の完全再生技術の開発」

「細胞ゲルを用いた軟骨再生技術の開発」

「核移行性ナノ粒子を用いた薬剤耐性がんに対するドラッグデリバリー技術の開発」

「植物の環境応答に関わるタンパク質の解析」

「核酸医薬の機能評価のためのマウス由来の細胞単離」

「核酸医薬の機能および毒性評価に関する研究」

「心筋梗塞モデルマウスの作製および生体組織修復ゲルを用いた心筋梗塞治療法の開発」

「神経系と生体組織の機能と形成に関わる遺伝子およびタンパク質の解析」

「網膜および中枢神経系における細胞分化とパターン形成機構の解析」

<実験動物の飼養保管の状況>

- ・使用（飼養）頭数： マウス： 581 (34)
ウサギ： 15 (0)

<施設等の維持管理の状況>

- ・飼養施設： 1箇所（F-1号館305動物実験室2）
- ・実験室： 3箇所（F-1号館312、313、314実験室）

<動物実験等に関する安全管理の状況>

- ・病原体、放射性物質等を用いた動物実験は実施しておりません。
- ・今年度、動物の逸走等の事故は報告されておりません。

<教育訓練の実施状況>

- ・実施日時： 3月31日、4月18日
- ・出席者： 95名
- ・神戸大学医学研究科准教授 塩見雅志先生からご提供頂いた教育研修スライドの一部を用いて、3Rsの原則や5 Freedomsについて再確認し、それらの重要性の理解を深めた。動物愛護に関わる現状を説明し、今後大学に求められる点とそれぞれの部局における留意点の説明を行った。また、両生類や魚類を扱う動物実験に関しても委員会への申請ができるよう大学の規程改定が行われたことをその経緯を含めて説明した。加えて、「動物由来感染症ハンドブック2025」を用いて人獣共通感染症の基本的理解を深め、人獣共通感染症が身近にあることを認識するよう指導するとともに、省庁横断型で進められている「ワンヘルス（One Health）」の取り組みを紹介した。